

【都道府県中間報告書】

都道府県番号	43
都道府県名	熊本県

【特色あるフロンティアスクールの取組事例】

(別紙様式)

教育委員会等名	熊本県教育委員会
---------	----------

(□ □ □)

学校名及び規模

玉名市立築山小学校(学力向上フロンティアスクール)									
	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	3	3	3	3	2	3	1	18	27
児童数	86	110	109	90	78	91	2	556	

実践研究の概要(主題(テーマ)及び設定の趣旨)

(1) 主題(テーマ)

「生きる力」をはぐくむ教育課程の創造
 ~ 「基礎・基本の定着」「豊かな心の育成」「健康・体力の向上」を通して~

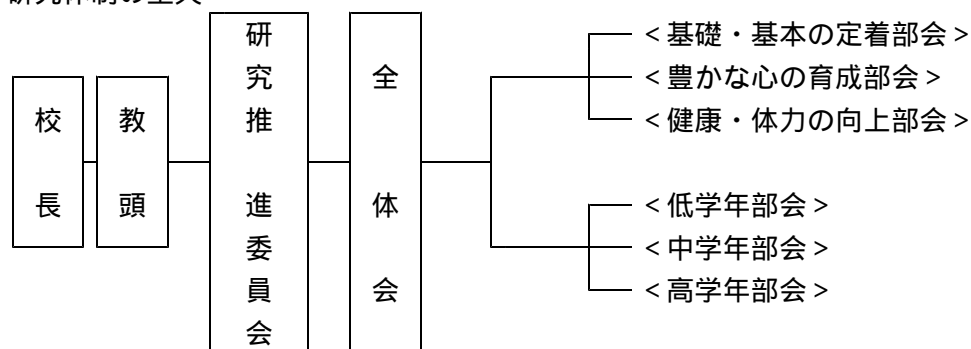
(2) テーマ設定の趣旨

新教育課程のねらいは、児童に基礎・基本の確実な定着を図るとともに、それを基に自ら学び、考え判断する力などの「生きる力」を育むことであり、豊かな人間性の育成や、これらの基盤となる体力向上まで含め、バランスよく伸ばすことが、今後益々重要になってくる。

このことは、児童の実態や学校教育目標の達成、保護者の願いからも取り組む必要がある。

実践研究の内容について(選択した観点を中心に記述)

(1) 研究体制の工夫



研究の視点としての「基礎・基本の定着部会」、「豊かな心の育成部会」、「健康・体力の部会」で、教育課程における重点化を図り、日課表や授業づくりの研究を進

めている。また、学年部会は、学級・学年間の連絡調整を図るために位置づけた。

(2) 実践研究の内容

「基礎・基本の定着」について

ア 教科担任制

4年以上で教科担任制を実施している。導入した目的は、学級担任以外の教師が、専門性や特性を生かした教科指導にあたることで、系統的で一貫性のある授業による学力向上を図るためである。

教材研究が一教科にしぼって行えるので、綿密な教材研究が可能となり、更に1時間ごとの評価によって、個に応じた指導ができるという利点がある。また、多くの教師の指導により、多方面から児童をとらえられ、開かれた学級づくり、生徒指導面で効果的である。

学活、道徳、総合的な学習は担任が指導しているが、行事などで時数が減る教科がでるため週1回の時数が必要不可欠である。

イ 少人数指導

3・4年で国語、5・6年で算数の少人数授業を実施している。少人数による授業を実施することにより、きめ細やかな指導の充実を図り、一人一人に確かな学力を身につけさせることをねらいとしている。

アンケートでも85%程度の保護者が「賛成」もしくは、「どちらかと言えば賛成」としており、理由としては、「きめ細やかな指導ができるから」という回答が一番多かった。

クラス分けについては、担任と十分に話し合い、子どもの学ぶ意欲が高まるように配慮する。基本的には、等質分けで行っているが、5年生の算数では、保護者への理解を求めたうえで、習熟度別に分けた授業を試みている。

今後の課題としては、どの単元で少人数授業を行うと効果的であるかを話し合い、年間指導計画を立てること、担任と少人数担当で事前と事後に打合せを行い、すべてのクラスの子どもに確かな力がつくようにすること、教材研究や授業研究を積極的に行い、指導力向上を図ること、保護者への啓発を積極的に行うこと等があげられる。

ウ T・T指導

本校では、個に応じた多様な教育の実現に向けて、3・4年の算数にT・Tを実施している。徹底指導と能動型学習における2人の教師の役割分担、習熟度や興味・関心によるコース別学習など、担任と担当で話し合いながら効果的な指導法を研究している。

よりきめ細やかな指導ができるように、単元全体の指導計画や年間指導計画の作成、評価規準・基準の作成、指導形態の工夫などを図っていく必要がある。

「豊かな心の育成」について

ア 「きらり体夢」(ボランティア活動の重視)

みんなのために流す汗は美しく、心まできれいになるという意味で名付けた。毎週1回、15分間取り組んでいる。活動内容は、学級で話し合っ美しくしたい所を決め、室内はクリーン、室外はグリーンと呼び、計画掲示板に活動場所を示して実行している。

活動には喜んで取り組むようになり、少しずつではあるが、自分たちで学校をきれいにしようという気持ちを持てるようになってきている。

6年生にいたっては、朝登校後にごみ拾いや、落ち葉集めなどの活動をしていて、ボランティア意識の高まりも見られた。今後は、めあての持たせ方等の工夫で、さらに意欲的な活動としたい。

イ 道徳教育の充実

道徳教育の年間計画も一層の充実を図り、冊子を作成した。それに基づいて、授業の充実を図ってきた。主任による各クラスでの授業実践。研究授業による、授業研究会の実施等により少しずつではあるが、指導力の向上、意識の高まりが見られるようになった。

今後の課題としては、資料分析の在り方と発問の工夫を基盤にした授業構成を研究していく必要がある。

「健康・体力の向上」について

ア 元気度調査

「起床・朝の洗顔・朝食・排便・朝食後の歯磨き・昼食後の歯磨き・夕食後の歯磨き・挨拶・テレビの視聴時間・就寝時間」の10項目を、毎月1回（第3週の1週間）調査し、集計している。

各項目ごとに「できた・できなかった」でチェックし、「できた」数を数字で表し、その1週間の反省も書くようにしている。また、各家庭からのコメントも書いてもらうようにして保護者への啓発も兼ねている。

イ ハッスルマッスルタイム

全校体育

体育行事に合わせてシーズン別に様々な種目に全校で取り組んでいる。

4～5月・・・築山っ子体操（本校独自のリズム体操）

6～7月・・・サーキットランニング、全校ゲーム

9月・・・築山音頭（本校職員と児童が作詞、作曲、振り付け）等

運動の森

15種類18種目の運動及び遊びを1週間交代で、縦割り班で実施している。運動の生活化を図るのがねらいである。

（3）成果と課題

教科担任制については、初めての試みではあるが、確かに学力が向上している。児童の学習意欲が高まり、教師側も教材研究が深くなってきた。課題としては、打合せ等の時間の確保であり、効率的な指導体制システムを確立する必要がある。

その他の研究の視点でも、効果が上がってきている。課題としては、道徳授業の充実を更に図っていく必要がある。

（4）成果の普及方策

玉名管内学力向上対策協議会と連動しながら、管内研究員による普及や次年度予定の自主発表会において成果を普及させたいと考えている。